

秋田県議会議員

佐藤のぶき

◎県議会
建設委員、
議会運営委員
◎自民党
財務委員、
青年局長

私たちのふるさと秋田を次世代へ引き継ぐために

県議会活動報告

9月議会にて4度目の一般質問

1.「ねんりんピック秋田2017」について

- ①効果の検証について
- ②ねんりんピック競技種目の全国大会誘致について
- ③「健康寿命日本一」に向けた機運の醸成について
- ④「健康寿命日本一」への具体的な取組について

2.スポーツ振興について

- ①運動部指導に係る教員の悩みや問題など、本県の現状と課題について
- ②外部指導者制度の導入について
- ③スポーツ少年団への旅費等の支援について
- ④ウィンタースポーツの夏場のトレーニング施設整備について

3.インバウンド誘客のためのサイクリング環境の整備について

- ①サイクリングコースの整備状況や各地域による取り組み状況、インバウンド誘客に向けた今後の見通しについて
- ②レンタルバイクの貸出環境の整備について

4.クマ対策について

- ①県有施設の安全対策と今後の整備方針について
- ②狩猟免許の取得状況について
- ③マタギ文化を活用した移住と狩猟者確保について

12月議会にて5度目の総括審査

1. 第3期ふるさと秋田元気創造プラン（攻めの農林水産戦略）について
2. 秋田県農林漁業振興臨時対策基金の総括について（夢プラン事業など）

決算特別委員会にて総括審査

1. 「スポーツ立県あきた」の取組について
2. 首都圏等からの移住の促進について

3月議会にて6度目の総括審査

1. 水産振興について
2. 担い手対策について

議会以外の主な活動

- ◎第17回都道府県議会議員研究交流大会（東京都）……11月13日
- ◎建設委員会県内調査（鹿角・北秋田管内）……8月23日～25日
- ◎建設委員会県外調査（三重県・和歌山県）……10月10日～13日
- ◎建設委員会県内調査（秋田・山本管内）……11月15日～17日



自由民主党 能代市山本郡第一支部

〒018-2401 山本郡三種町鵜川字大曲53-2

電話 0185-88-8919 FAX 0185-88-8250

■Eメール info@sato-nobuki.com



●8月24日建設委員会県内調査（鹿角・北秋田）
大館能代空港を訪問した際に記念撮影（H30.8.24）



●建設委員会県内調査（能代・山本管内）
日治道「小繋IC」並びに「新・道の駅ふたつ」
の工事概要について、国土交通省職員より説明
を受けました。（H29.11.17）



●建設委員会県内調査（能代・山本管内）
三種川床上浸水対策特別緊急事業の現場
視察を行い、原建設委員長に事業の緊急性や
重要性を伝えました。（H29.11.17）

自治会や町内会の会合などお気軽
にお誘いください。そして、皆さんの
ご意見を是非、お聞かせください。

Link リンク

県民と自由民主党
会派をつなぐ

発行／平成30年3月1日
ご質問、ご意見をお聞かせください。

編集／秋田県議会自由民主党会派 政務調査会
〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号[県議会内]
電話 018-860-2040 FAX 860-2102

県民と自由民主党会派をつなぐ

Link

2018.3 No.32

—— 謙虚に政策を進め、秋田の未来を拓く！ ——

ごあいさつ

自由民主党会派 会長 鈴木 洋一

新春にあたり県民の皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年10月の衆議院総選挙において自民党は公示前と同じ284議席を獲得し、衆議院の単独過半数を超え、公明党と合わせて与党は全体の3分の2を超える313議席となりました。このことは「安定した政治基盤の下でこれからも政治を前に進めよ」と多くの国民・県民の皆さまから強く背中を押していただいた結果であり、心より感謝申し上げる次第であります。

さて、秋田県においては最大の課題である少子高齢化への対応、頻繁さを増す北朝鮮のミサイル発射、秋田県沿岸への同国軍隊所属漁船や漁具漁民の漂流漂着の脅威など、秋田県の問題のみならず国難ともいえるふたつの大きな事態を抱えています。私たち県議会自民党会派はこれらの大きな課題を含め、県民の不安などに真正面から立ち向かい、皆さまと共に安心できる秋田県の未来を切り拓くとともに、県民の皆さまとの意見交換や対話集会などをとおして、活力ある秋田を目指してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻をくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本年が、県民の皆さま一人ひとりにとって、実り多き、素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



認知度が高まってきた秋田犬。本県のカラーコンテンツとして人気急上昇中。現在、大館市が東北観光復興対策交付金を活用し、函館・大館・角館（3D三つの館）の縦断するラインを結んだ、インバウンド対策に取り組んでおります。2020東京オリンピックを契機としたインバウンド観光と、重点道の駅として指定された「新・道の駅ふたつ」、日治道の開通などを契機に、能代山本地域に観光客を呼び込む絶好のチャンスが訪れようとしております。

西日本では、普段行なっている地域行事や伝統芸能、農林水産業における作業体験、サイクリングなど、気軽に体験できる体験型観光が大変盛り上がっているようです。

私たちが住む能代山本地域にも体験型のコンテンツは豊富にあると思いますが、小さな取り組みを点と点で結びながら、より広域な連携が必要になってくるのではないのでしょうか。

昨年は、7月、8月の大雨により雄物川が氾濫し、大仙市を中心に甚大な被害があり、被災された皆様には心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

能代山本地域の皆さまには、日頃より大変お世話になっておりますことを、心から厚く御礼申し上げます。また、県事業の推進については、多大なるご理解とご協力をいただいておりますことを、深く感謝申し上げます。

現在、農林水産業はじめ、地域に根ざした中小企業、医療・福祉・介護分野など、どの業種においても後継者不足、担い手不足が課題となっており、このままでは地域を維持していくことが困難になっていくのではないかと、非常に危機感を感じております。これまで、一人でも多くの方を秋田に残す・戻すということを念頭に、移住・定住対策について様々な提案をしてみましたが、十分な成果に繋がらない現実に関心しております。

政治ができること、行政ができること、県民ができること、それぞれ役割は違うものの、一丸となって、秋田の人口減少に立ち向かい、活力ある秋田を目指し、力強く前に進んでいかなければならないと考えます。

引き続き、私たちのふるさと秋田を次世代へ引き継ぐため、そして、地域発展のため精一杯努力してまいりますので、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



秋田県議会議員

佐藤 信喜